

はばたくなら ③⑦

豊かな心と体を育むために
～体を動かして遊ぶ活動を通して～

取組について

■本園の子どもの姿として、素直で落ち着いて活動することができるが、自信をもって発言や行動することが苦手である。また、体幹が弱く姿勢が崩れやすいことが原因で集中して話が聞けないことが多く、運動遊びや活動をしていく中でうまくいかずに諦めてしまう姿も多く見られる。

そこで、身近に楽しめる運動遊びや体幹を鍛えられる活動を取り入れ、環境構成を整えたり援助したりすることで、思いを積極的に伝え合い、友達と思いを共有しながら意欲的に遊びを進めていけるようになってほしい。また、その姿を10の姿で捉えることで、成長の確認をしていけたらと考えた。

■本園は小学校と同じ敷地内にあり、小学校が身近にあるため、小学校生活や児童の様子を目にする機会も多くある。

学校探検や行事に参加し、児童との交流を通して、小学校生活に期待や憧れをもてるようにし、円滑な接続を図っていこうと考えた。

この取組を通して…

○一人一人の興味や関心を探りながら計画を立て、子どもが遊びたくなるような環境を構成したり子どもの気持ちに沿った教師の援助や働きがけをすることで、誘い合って関わり、遊び方を考えたり教え合ったりするようになった。また、今までしていなかった遊びや諦めていた遊びに挑戦するきっかけになることもあった。

○意図的に運動遊びを積極的に取り入れることで、運動遊びのおもしろさに興味をもち、主体的に挑むことで身体の機能が発達し、体幹が鍛えられ、運動能力が伸びていった。更に、心も体も柔らかくして遊んでいるかなど、保育の視点をしっかりもち続け、子どもが自ら十分に発揮できる環境構成や援助を追求していきたい。

○小学生のリレーを見学しアドバイスをもらったことで、リレーを自分たちでやり遂げた達成感や自信につながり、小学校や小学生に対する興味や関心がより身近になり、憧れの気持ちが高まったように感じた。今後は、接続を滑らかにするために、子どもだけでなく、職員間でも共に考えて目的意識をもった交流を進めていかなければならないと考える。また、成長を言葉で伝えるだけでなく、掲示物等を利活用して、こまめに情報交換したり子どもの姿について確認し合ったりする交流の機会を設けることで円滑な接続を図っていきたいと考える。

実践事例① 運動遊び

ねらい：身体を十分に動かし、進んで運動しようとする

醸成される運動能力

子どものつばやき

10の姿で捉えた子どもの成長

環境構成・援助

バランス能力と定位能力の向上

こっちのほうが楽しい！



ジャンプうまくいった！

ぶつからないように…

協同性

運動遊びが楽しくなるように思いを伝え合いながら協力して遊ぶ

道徳性・規範意識の芽生え
方向や順番を守って遊ぶ

思考力の芽生え

今している遊びをもっと楽しいものにしようと工夫する

子どもがフープの数を増やしたことを褒めたことで、新たに配置を自分たちで考え、フープの上は走り抜けるように遊びが変化していった。さらに、前の子どもとの距離感に気を付けて遊ぼうとしたり高くジャンプしたりと遊びが発展していった。

平衡感覚の醸成

高い方も跳べるようになったよ！！



自立心

様々な活動を経験する中で自信をもって行動する

低・高のS棒を分けて置くコーナーを設けたことで、苦手意識のある子どもも楽しく遊べるようになった。また、低S棒だけでなく高S棒にも挑戦しようとする姿が見られるようになった。

豊かな感性と表現

「ひっこぬけた」「すごい」と感動を素直に表現できる

握力や腕力の向上

ぜんぜん抜けな—い



抜かれないように頑張るぞ！

一緒に手伝って！

協同性

声を掛け合いながら協力して友達を引き抜こうとする

一人じゃなくてもいいことを伝えたと、友達と誘い合って引っ張ろうとする姿になってきた。また、引き抜けるまで人数を2人、3人と増やしていくようにもなった。

バランス能力の向上

今日は足じゃんけんしよう！



あっ、負けた。早く友達と代わらな！

健康な心と体

友達と一緒にアイデアを出しながら意欲的に遊ぶ

言葉による伝え合い

自分のアイデアを伝えたり友達の思いを聞いたりして遊びを進めていく

急ぐあまりマス目通りに足が合っていなかったり転びそうになったりしていたが、跳ぶリズムを意識できるような言葉を掛けることで、マス目に合わせてケンパができるようになってきた。また、単なるケンパからチーム対戦ゲームに発展していった。

正しい姿勢の意識

あれ？長いこと座れるようになってる！？

背中ピンで座れるようになったで



健康な心と体
自分の体や健康な生活の仕方に気付き、自分で気を付けて生活する

自立心

自分自身で意識して、姿勢正しく座ろうとする

正しい姿勢を意識することができるように牛乳パックの椅子を取り入れた。5月当初は、殆どの子どもが座れなかったが、様々な運動遊びを経験することで座れるようになっていった。

実践事例② 小学生のリレーを見て

ねらい：身近な人と親しみ、関わりを深めて工夫したり協力したりして一緒に活動する楽しさを味わう

友達と繰り返して遊んだり挑戦したりすることで自信につながり、運動会の練習もできなくても諦めることなく練習していく姿があった。リレーも毎日やりたいという意欲がわき、チームで作戦を相談し合うことで、勝ちたいという気持ちが高まってきた頃、「お兄ちゃんもリレーするねん」と自分たちと同じリレーをすることに驚くとともに見学に行きたいということになり、小学校と連絡を取り合った上で、見学に行った。



どうやったら勝てる？

どうしたら速く走れる？

質問の答えは
(6年生のアドバイス)



すごいなー！
体すごく低いなー！

豊かな感性と表現

友達のアイデア聞いたり、自分の意見を主張したりする

社会生活との関わり

6年生に憧れをもち、真似て走る

- ・できるだけ腕をふる
- ・走る練習をする
- ・つま先で走る
- ・靴をしっかりと履く
- ・背筋を伸ばして走る
- ・地面を強く蹴る
- ・最後まであきらめない

小学生からアドバイスをもらったことでリレーがより活気付き、走ることを楽しむ姿が見られ、友達と誘い合って走る姿が出てきた。



よし、頑張るぞ！

つま先で走るぞ！

最後まで走る！

健康な心と体

友達と競い合いながらリレーをする



足に力入れやんとあかんわ！

走る順番を替える？

自立心

自分たちで考えた作戦を活かそうとする

協同性

互いに認め合いながら話し合いを進める

思考力の芽生え

速く走るために、作戦を考える

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

何番目に走るかを考える

言葉による伝え合い

チームごとの作戦会議で思いを伝え合う

小学生からのアドバイスを思い出して作戦タイムをとることで、チームでみんなの気持ちが一つになり勝ちたいという目的に向かって更に意欲が増していった。

～運動会が終わって、
4歳児と一緒にリレー遊びをする～

これ(バトン)どうするの？

1周走ってから後ろの人に渡すねん

しっかり手を振って走りや



社会生活との関わり

4歳児に優しく遊び方を教える

道徳性・規範意識の芽生え

ルールを守って走ろうとする

自分たちがやり遂げたという達成感を味わい自信をもったことで、4歳児に教えてあげたいという意識や活動につながった。